

H.28
(2016年)

十一月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺 しんしゅうおおたには がんじょうじ

赤ん坊は『我欲の無い仏様』なのです

赤ん坊が生まれつき持っている心の働き（本能）は、お腹が空いたり・オシメが濡れると泣き、その要求が適うと泣き止みます。愛情のある世話が生後1年も続くと『（基本的）信頼感』が育ちます。そして、生長すると自分に自信ができ、他人や世の中に対する信頼感も生まれ、苦惱に出会っても・前向きに生きるようになり、『生まれて来て良かった』と喜べるのです。

お釈迦様の遺言は『自灯明・法灯明』自分の考え方と仏法（仏教）の2つが灯火のように、私の進む道を照らし・眞実（法）を教える』でした。親鸞聖人は『苦惱の多い人（凡夫）が、煩惱を持ったまま救われる道』を説かれました。病気になつても、第3者の立場から自分の過去の生活習慣を厳しく見直せば、因縁（原因）と条件（けんじょう）が納得できます。阿弥陀仏は人間を『攝取不捨（攝り入れて捨てない）』します。これは、自分勝手な行動をする幼児を、優しい母が追いかけて捕まえ・抱き締め救うようなものです。

主な参考資料

(1)和田真雄(著)『他力信心を実感するための法話』、法蔵館、p.1~90(2015年)。

(2)沖野頼信(著)『もしもし相談の答』、月刊・南御堂新聞 2016年10月1日発行(真宗大谷派・難波別院)。

(3)白取春彦(著)『仏教「超」入門』、すばる舎、p.97~110(2004年)。